令和５年度　杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	９８	学校名	仙台市立将監西小学校	校長名	髙橋　興

1　取組のタイトル，テーマ

「エコロジーの心を持ってゴミの分別等を徹底する」

2　取組の紹介

（1）古紙回収ボックスの設置

プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）という観点からみると、既に（生物絶滅の速度と多様性の喪失）・（絶滅の加速度・空気中の新規科学物質・・・ 窒素、リンの突出した生産量）等の分野で、地球の限界を超えていると言われています。この状況は、我々人間が導いたことはいうに及びません。しかし、この限界を回避するのも人間の意志の力です。わが校なりに、地球のためにできることを実践しました。

各クラスに、古紙回収ボックスを配布し、再利用可能な紙は、環境委員会が古紙回収ボックスを配布し、再利用可能な紙を各クラスの一人一人の意志で集めてもらいました。５，６年生は、環境給食委員と各担任がリードし、１～４年生は各担任がリードしました。

月１回の委員会活動の際にボックスを回収し、委員会メンバーが紙の種類毎に分別し、ビニール紐で結束作業をします。古紙回収ボックスがほぼいっぱいになると、平均して 2.5 キログラムの古紙が回収されました。単学級１年生～６年生と特別支援学級２クラスを合わせて 8 クラス分回収します。月１回トータルで平均 16 キログラムの再生利用可能用紙が集まります。それを、ゴミ集積場まで委員と教員で運び、活動を終了します。一般用紙 1000 キログラムから、850 キログラムの再生紙に変えられる現在の技術からすると、一回の活動で集められる古紙から 13.6 キログラムの再生紙製造に寄与したことになり、５月から２月までの 10 ヶ月の委員会活動で、10 か月で 136 キログラムの再生紙製造に寄与した計算になります。地球が抱えられる資源は、有限であります。その限られた資源を、有効に活用し、持続可能なエネルギー活用につなげるには、小学校時代をはじめ、子供のころから、持続可能な社会を維持するための、生産消費形態を浸透させていく必要を改めて感じました。

（2）太陽光を有効活用…ペットボトルで水温を上げる

学校の教室掃除で床拭きはかかせません。そのとき必要なのは、温かい水。ここで電気や、灯油を使えば、エネルギー化石燃料等を使うことになります。寒いけれど多少は温かい水を使用したい。そうであれば、太陽光を活用すれば温かくなるのではないかということで、ペットボトルに黒テープを巻き、熱吸収率を上げて多少温まった水で掃除を行いました。地球にも人にもやさしく、冬場でも掃除の意欲を欠くことなくできました。

3　取組の成果（児童生徒の変容）

教室での日々の実践を通して、不要な紙が発生した場合でも、場の設定さえしていれば小さめの紙はゴミとしてゴミ箱に分別し、学習で使用していた紙は分別へという自然な形で完結する流れが、児童一人ひとりに浸透していることを実感しています。古紙をリサイクルすることで、町、学校のゴミを減らし、焼却時の CO_2 有害物質の減少につなげたい。これを全校で、低学年から繰り返し続けることが、２１世紀の時代を担う子供たちが、自ら環境を考えて生活する大人になることを切に願うとともに、指導の徹底を学校全体で行いたいと考えています。